

「木曾地域の農林業・観光ビジネスを考えるつどい」を開催しました

「木曾流のアグリツーリズム」について考えよう！

1月26日、木曾広域連合と木曾農業改良普及センターの共催により「木曾地域の農林業・観光ビジネスを考えるつどい」を木曾合同庁舎で開催しました。「木曾の豊かな地域資源を活かした、木曾ならではのアグリツーリズムの在り方について広く考えてみよう」という趣旨により、3年前から開催しています。今回も農林業者、農産加工や販売に係わる商工業者、観光業者など約50名の方が参加されました。

講演会の講師は、上田市下武石の農業生産法人「信州せいしゅん村」の村長(むらおさ)である小林一郎さん。「農村活性化活動のモデル発信地を目指して」のテーマでお話を伺いました。

「信州せいしゅん村」は、2000年に設立、2009年に法人化され、日帰り農村体験、海外青少年交流など様々な事業を行っています。地域住民による意見交換会を続けていることや、信州せいしゅん村の設立にあたって明確なビジョンを策定したこと、その後も計画性のある事業展開を行ってきたことなど話してくださいました。「ありのままの農村の日常が、都会の人からみれば「非日常」であり、無理をする必要はない。都市と農村を対等な関係であることという理念を持って、農村の癒しをサービスできる体験事業を実施されている。現在も旅行業者、観光業者と連携して国内外に広く事業展開している」などのお話に、参加者一同熱心に耳を傾けていました。

続いての事例発表は、木祖村農林課 渡辺さんから「耕作放棄地再生のためのそば振興」の現状と課題、木曾広域連合地域振興課 熊沢さんから道の駅の駅長による「木曾菜漬け」の開発経過の2事例が発表されました。



約 50 人の参加者がお三方の説明に熱心に耳を傾けました



小林さんから、ご自身の取り組みに基づいた意欲あふれるお話をいただきました



木祖村農林課 渡辺さん、木曽広域連合地域振興課 熊沢さんから事例発表いただきました